

「スポレクとやま2010」を終えて

1 祭典参加者数（延べ人数）

行 事 名		参 加 人 数(人)
開 会 式（10月16日(土)）		8,000
特 別 行 事（10月16日(土)～17日(日)）		102,000
閉 会 式（10月19日(火)）		1,800
シンポジウム(9月19日(日))		2,000
種目別大会 (10月16日～19日)	都道府県代表参加種目	54,000
	フリー参加種目	45,000
日韓スポーツ交流事業		500
合 計		213,300

※ 第15回広島大会(平成14年)以来、最高の参加者数である。

2 種目別大会の結果

(1) 競技成績

県内最高齢選手、廣瀬 弘 氏（マスタース陸上競技：三段跳男子 80 歳以上）の優勝をはじめ、壮年サッカー競技チームや女子ソフトボールチームの優勝等、都道府県代表参加種目（18種目）の17種目において60個人、35チームがスポレク賞を獲得するなど、過去に類を見ない本県選手の活躍があった。

(2) 国際交流及び世代間交流

日韓スポーツ交流事業における本県選手と韓国選手との交流をはじめ、韓国選手の射水市立大門小学校訪問による児童との交流等、国際交流の推進に貢献した。

3 祭典の成果

(1) 県内全市町村で種目別大会を開催し、多くの県民の参加、協力があつたことにより、全県的にスポーツ・レクリエーションへの関心が高まり、生涯スポーツの振興に寄与した。

(2) 種目別大会や特別行事等を通じて、選手同士の友情、県民との出会いと交流が生まれた。また、多くのボランティアなど県民の協力を得て運営したが、「富山の人は優しく、親切」との声が多数寄せられ、おもてなしの心の醸成に繋がった。

(3) 式典演技で高い評価を得た開会式、特別行事会場での富山ブランド、地域ブランド、観光PRコーナーの出展、市町村における交流行事等により、「元気とやま」の魅力を全国に発信できた。

(4) バスによる輸送を大幅に削減し、選手等は、JR、ライトレール、徒歩で移動するなど環境に配慮した祭典となった。（バス走行距離が先催県と同程度とすれば、CO₂は、約4割減と推定される。）

(5) 経済効果

今後、来県・来場者アンケート結果を取りまとめ、宿泊、交通、飲食、お土産等の購入に伴う経済波及効果の試算を公表する予定であるが、大きな経済効果があつたものと考えている。（昨年の宮崎大会の県外参加者8,200人で22億円に対し、本県は約12,000人の県外参加者があつたと推定すると、経済波及効果は、30億円程度と見込んでいる。）

4 「きときと君」の活用

「きときと君」は、スポレク祭用のマスコットとして作製したものであるが、ことのほか人気が高く、続投の要望が強いことから、今後、本県のスポーツ振興等のシンボルマスコットとして位置づけ、各種イベント等で活用したい。

問合せ先
スポーツ・保健課 全国スポレク祭推進班
076-444-4120 内線4660